

あるトラブル事例～保護者からのSOS

余暇・通勤場面での性？トラブル

写真を撮るのが好きなAさん。
風景を撮っていたところが、..

- ① 痴漢？公務執行妨害？
- ② 上司の方が理解してくれた、障害理解
- ③ 母親；刑事手続きがどう進むのか？
- ④ どこに相談していいのか？

6

なにが解決のポイントだったか

- すぐに相談できる糸口があったこと（TSの役割）
- すぐに動ける弁護士が身近にいたこと（多職種連携）
- 上司の理解があったこと、障がいに対する知識や理解や社会的
位置づけを理解してもらえたこと
- 2013年6月
 - 障害者雇用促進法改正、障害者差別解消法成立
 - →障害者差別の禁止と、合理的配慮が盛り込まれる
- 課題—警察官の理解が必要。
- 裁判での解決が必要な場合もあるが、まずは、
障がい特性等について説明し、合理的配慮を求めて
みる。

7

知的障害・発達障害者の事件

2000年 ・愛知県豊川市で高校3年生がお年寄りを殺害
03年 ・長崎市で中1が男児を誘拐、駐車場から突き落とす

05年 ・京都府宇治市で学習塾講師が小6女児を殺害
・静岡県伊豆の国市で高1女子が母にタリウム飲ませ殺人未遂
・大阪市浪速区で男(23)が姉妹を殺害

06年 ・大阪府寝屋川市で少年(18)が教員を殺害
・奈良市で高1の長男が自宅に放火、母と妹ら3人死亡
・宮崎県延岡市で男性(22)が高校生2人を殺害

08年 ・JR岡山駅で少年(18)が岡山県職員を突き落とす
・奈良県大和郡山市で長男(19)が父を殺害

09年 ・JR東京駅で男(25)が女性をホームに突き落とす

8

■危機介入《触法》に求められる役割と課題

発達障害のある人の事件をめぐって
捜査での供述と報道
「死んだ人には謝罪ができない」
↓
捜査当局やメディア 「反省ない」「凶悪」「猟奇的」「不可解」
↓
障害特性 想像力の困難性 硬直した思考 コミュニケーション不全

◆ 負のスパイラル ◆
発達障害=不可解=凶悪 →発達障害に暮らしにくい地域
厳罰化
刑務所・少年院での発達障害向け矯正プログラムの不在
再犯リスク高いまま出所
地域社会での理解・サポートの不在
※被害者の処罰感情は満たすが、矯正も社会の安全も結びつかない

9

危機支援《触法》サポーターの役割

行動障害
・ 問題行動
・ 街の中のトラブル
・ 触法行為 理由や背景を理解し、
社会への啓発
関係機関の調整
適切な刑事手続き・
保護・矯正などの処遇を求める

・ 処遇の難しい障害者を社会や福祉から排除しない
・ Respect for inherent dignity
(障害のある人固有の尊厳を尊重する)
↓
真の共生社会をつくる

10

■危機介入《触法》に求められる役割と課題

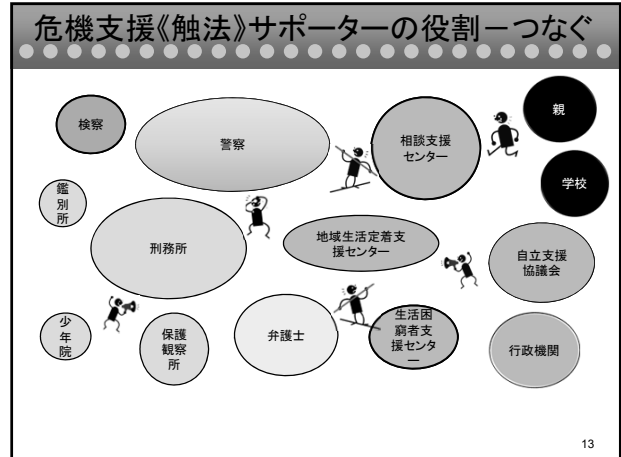
・ 障害のある人の事件を減らす
身近なトラブルへの適切な対処、環境整備、啓発・理解
↓
・ 適切な報道
↓
・ 適切な刑事手続きと司法判断
↓
・ 矯正プログラムの開発と普及
↓
・ 社会復帰支援の拡充・環境整備・理解

11

■危機介入《触法》サポーターに求める専門

- ・ 障害者を守る覚悟と障害特性の理解
- ・ 原因究明への知的的好奇心
- ・ 冷静、科学的な思考
- ・ 法律、制度、地域資源を熟知
- ・ コーディネート能力
- ・ 警察、弁護士、地域社会への交渉力
- ・ 地域社会やメディアに説明し納得させるプレゼン能力と胆力

12



■危機介入《触法》一人材養成の基本講座

知的障害・発達障害のある人のための
トラブル・シューター 養成セミナー
～障害のある人と社会をつなぐ新たな人材育成に向けて～
Trouble (問題) をshoot (解決) する人
全国の各会場にて開催いたします。http://www.tts-net.com

トラブル・シューター[基礎コース]研修プログラム概要 ※各開催地により若干異なる予定です。

<p>第1 講義</p> <p>「トラブル・シューターが目指すもの」 最近の動き(過去の事件やトラブル、法務省や検察庁の制度改革の動きなど)から、なぜ、今取り組むべきなのかを理解する。</p>	<p>第3 講義</p> <p>いざという時の対処法 「逮捕されたら起訴されるまでにやること」「危機介入の方法」(弁護士が担当、刑事手続きなどの解説と演習)</p>
<p>第2 講義</p> <p>「問題行動」「触法障害者」の理解 なぜ彼らは事件やトラブルを起こすのかを科学的に理解し、支援の方法と対策を個別に向けた合理的根拠を理解する。(精神科医、心理士担当)</p>	<p>第4 講義</p> <p>グループワーク インストラクターが各グループに入り進行する。事例検討と今後のネットワーク構築ディスカッション。</p>

◆ 修了者にはTTS基礎コース修了証を発行いたします。

14

北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小樽エリア(2013) ・ 石狩エリア(2015)
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮城・仙台エリアTTSネット(2014) ・ 山形エリア(2014) ・ 花巻エリア(2015)
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木エリアTTSネット(2013) ・ 千葉・富津エリア(2013) ・ 東京エリアTTSネット(2013～) ・ 多摩エリアTTSネット(2013～) ・ 神奈・横浜エリア(2012)

15

中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟TTS+新発田エリア(2015) ・ 富山エリアTTSネット(2013/15) ・ 長野エリア(2014) ・ 静岡エリアTTSネット(2013) ・ 愛知・名古屋エリア(2012)
近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滋賀エリアTTSネット(2013) ・ 京都エリアTTSネット(2014) ・ 関西エリアTTSネット(2013) ・ 和歌山エリアTTSネット(2014)
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取エリア(2013)

16

四国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳島エリアTTSネット(2013)
九州	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡エリアTTSネット(2013) ・ 長崎エリアTTSネット(2013) ・ 大分・別府エリア(2014) ・ 奄美大島エリア(2015)
沖縄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄エリア(2015)

17

2. 危機介入《触法》のための地域ネットワークと権利擁護

- ①街の中の危機対応
障害理解啓発＋トラブル予防
- ②組織としての危機対応
刑事手続き・入り口支援、出口支援
- ③本人のための危機対応
性犯罪再犯防止SOTSEC-ID

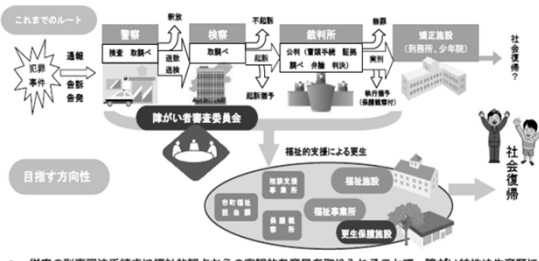
■危機介入《触法》ネットワーク構築の実践

- ▶目的；
触法行為を犯した知的障害・発達障害のある人（さまざまな問題行動を抱える人を含む）に対して地域の司法関係者、支援者、親、学校関係者、行政等が、ネットワークを組み合わせながら支援を実施できる体制を創る。
- ▶活動；
 - ①トラブルの予防に向けた取り組み
 - ②刑事手続き「入り口支援」に関わる取り組み
 - ③再犯防止や「出口支援」に関わる取り組み

19

■触法を犯した人の支援—地域で支援し続けること— —刑事手続きの流れ

刑事司法手続きの中に福祉的観点からの客観的な意見を取り入れる

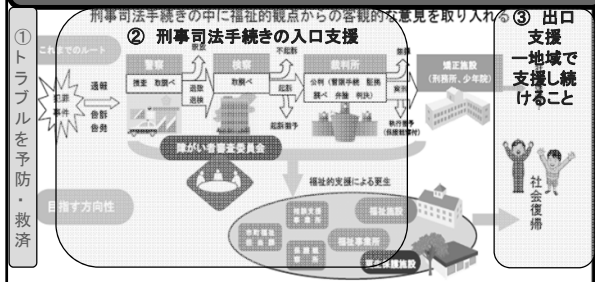


- 従来の刑事司法手続きに福祉的観点からの客観的な意見を取り入れることで、障がい特性や生育歴に配慮した適切な司法判断が可能になる。
- 本人の障がい特性などに合った適切な福祉の更生支援を受けることで、早い段階での効果的な再犯防止につながり、ひいては、社会の中で安心して暮らせる「居場所」を得ることにもつながる

20

■触法を犯した人の支援—地域生活支援サポーター

- ①トラブル予防 ②入り口支援 ③出口支援



- 従来の刑事司法手続きに福祉的観点からの客観的な意見を取り入れることで、障がい特性や生育歴に配慮した適切な司法判断が可能になる。
- 本人の障がい特性などに合った適切な福祉の更生支援を受けることで、早い段階での効果的な再犯防止につながり、ひいては、社会の中で安心して暮らせる「居場所」を得ることにもつながる

21

- ①街の中の危機対応
障害理解啓発＋トラブル予防
* 親や支援者、教員が事前に連携

警察プロジェクト
ぽっぽやプロジェクト
コンビニプロジェクト
かかりつけ医プロジェクト
ご近所プロジェクト

■被害や加害を繰り返さないためにも

- ◎本人へのアプローチ
 - 危機回避のSST、認知行動療法 等
 - 特性理解と原因の追究
 - 親だけでなく第三者による支援の継続性
 - 自らの表現する力を身につける(エンパワメント)
- ◎社会のアプローチ
 - 早期救済と予防のためのシステムづくり
 - 関係機関(警察、弁護士、裁判所など)や社会資源への障害理解の啓発、協力を行う
 - 近隣住民や事業主への障害理解の啓発を行う
 - 支援の専門性の確保および支援機関の開拓開発と連携

23

■事例一なぜ万引きをしてしまったのか？

- コンビニ・商店街・レンタルショップを利用して、こんなことがありませんか？
- 店内を飛び回って人や物にぶつかってしまう
- 牛乳売り場などで、商品を並べ替えるのにこだわりあれこれいじる
- 冷蔵庫の扉を開け閉めして困った
- お金を払っていないのに袋を開けて食べてしまった、持ちかえてしまった
- 雑誌コーナーをじろじろみて不審者に間違われた

◆事例一レンタルショップでDVDを繰り返し万引きしてしまう自閉症スペクトラム障害のAさん一なぜ？

24

■事例一なぜ痴漢をしてしまったのか？

- 駅・バス・タクシーを利用して、こんなことがありませんか？
- 駅で迷子になってかなり探した
- 電車を乗り越し降りる駅がわからなくなった
- 手帳で割引制度を利用しようとしたら駅員がわからなくて使えなかった
- ホームでパニックになって動かなくなった
- 決まりの席にこだわって乗客とトラブルした
- 終点で降りれなくて一晩バス中で過ごした
- じろじろ見る癖があって痴漢に間違われた
- タクシーに乗車拒否された

◆事例一電車の中で痴漢に間違われたBさん一なぜ？

25

■地域生活サポートネットの構築

弁護士、教員、福祉、親、矯正、相談、市民
地域生活支援サポートネット

警察・交番との安全ネット
障害者に理解ある警察官

消費生活センターとの安全ネット
消費生活センター 詐欺・悪賞商法

交通機関との安全ネット
障害者に理解ある駅員
バス運転手
タクシー運転手

医療機関との安全ネット
障害者に理解あるかかりつけ医

消防・救急との安全ネット
障害者に理解ある消防・救急隊

コンビニ・商店街との安全ネット
障害者に親切な店・店長さん

26

■どうすれば？一理解啓発コンビニプロJ

たのんます！
知的障害のある人の
サポーターのお店。

それでも通じない…そんなときは

- 1 コミュニケーションボードを利用しましょう。
- 2 連絡してください。
- 3 地域の連絡先にご一報ください。

27

こんな時は、どうしたらいい？

やさしいことばでゆっくりと話しかけてください

- 1 店内を飛び回って人や物にぶつかってしまう
- 2 牛乳売り場などで、商品を並べ替えるのにこだわりあれこれいじる
- 3 冷蔵庫の扉を開け閉めして困った
- 4 お金を払っていないのに袋を開けて食べてしまった、持ちかえてしまった

28

■どうすれば？障害理解ぽぽやプロJ

交通機関で動みなさま、知的障害がある人のサポーターになって作り

- 1 コミュニケーションボードを利用しましょう。
- 2 連絡してください。
- 3 地域の連絡先にご一報ください。

29

こんなとき、どうしたらいい？
 こんなお客さんに出会ったら・・・

やさしいことばで、ゆっくりと話しかけてください。周りを困らせようとしているわけではありません。何か不安なことやわからないことがあるのかもしれませんが、

● 駅構内やホームで、駅員さんや乗客さんを見つめて話を聞いてもらう...
 ● 駅構内やホームで、駅員さんや乗客さんを見つめて話を聞いてもらう...
 ● 駅構内やホームで、駅員さんや乗客さんを見つめて話を聞いてもらう...

30

■警察官プロジェクト
警察官に障害を理解してもらおう

- ・ 知的障害や自閉性障害のある人は、
- ・ 障害のない人より被害にあう確率が高い。
- ・ 障害の特性から、警察にかかわることも多い。
- ・ 刑事訴訟手続などの手続きにおいて
- ・ 不利益を被ることも少なくない。

そこで・・・
 警察官に知的障害について正しく理解してもらおう！

31

知的障害者を犯罪から守れ
 親子「安全ネット」結成

来月 各地域で活動計画
 警察との連携カギ

32

警察プロジェクトの具体的活動

- ・ ハンドブックの作成、配布
- ・ 全国の警察署に2万部配布
- ・ 一般向けのハンドブックも作成
- ・ 地域のセーフティ・ネット構築構想

33

安永健太さん事件で考えること
 中度知的障害がありました。
 状況を把握する力や見通しを立てる力が障害のない人より劣っています。情報を処理する能力も高くありません。そのため、自分の身に何が起きたのかを判断することは困難です。
 健太さんは、びっくりしたと思います。
 ただ、いつものように作業所から家に帰っていたなのに、いきなり追いかけられたのです。
 健太さんは、自閉症スペクトラム障害もありました。自閉症の人は、突発的事項への対応がことのほか苦手です。ルーティーンにこだわるのはそのためです。健太さんも、毎日、カバンにいろいろなものを詰め込んで、それを自転車の前かごに乗せて作業所に通っていました。数十キロの荷物を前かごに積んで走れば、多少は蛇行します。また、これも自閉症のある人によく見られる特徴として感覚過敏があり、特に、急に身体に触られると、飛び上がるくらい嫌がりました。コミュニケーションの障害もあり、視覚優位で、耳からの情報はほとんど入ってきません。
 事件当時、そんな健太さんの目には、どんな風景が映っていたのでしょうか。

34

警察官らが、
 そんな健太さんが

- ・ 知的障害や自閉症といったコミュニケーションに困難ないし障害を抱えた市民であることの可能性を思ってくれていたら、
- ・ そのため、ゆっくり、丁寧かつ穏やかに話しかけ、近くで見守るなどといった適切な対応をとってくれていたら
- ・ 警察官のうち一人でも、その可能性に思い至ってくれていたら、

本件は起きなかったはずです。

35

また、警察官らが

- ・健太さんの反応を注意深く観察すれば容易に知的障害があることを認識することができたと
思いますし、
- ・警察官が、少しでも「障害を抱えた人ではないか？」と想起すれば、
- ・障害者手帳（療育手帳・身体障害者手帳・精神保健福祉手帳）を身に着けてないかを確認し、療育手帳の存在に気づけば、

途中で中止できたと考えたいです 36

2004年警察庁によって

「障害をもつ方への接遇要領」が作成され、全国の警察本部や警察署に頒布されました。

接遇要領は応対する警察職員が障害を正しく理解し、適切な対応を行えるよう、障害に関する知識及び応対時の配慮について作成されたものです。この接遇要領の作成にあたっては、警察プロジェクトも協力しました。

37

接遇要領「障害を持つ方への一般的な配慮」

- ・全障害を通して優しく、かつ、相手を尊重したことは遣いで対応し、戸惑っている様子を見たら一言かける、コミュニケーションが不十分であったら、ゆっくり、丁寧に、わかりやすい対応が必要となります。
- ・『パニックになって大声を出している人がいる』との通報があった」という場面では、その対応として「強引に押さえつけようとする、パニックが増幅してよけいに暴れることもあります。周囲の人々が、怖がったり、気味悪がって過剰に反応するのは逆効果です。パニックになっている知的障害（自閉症）のある人とわかっている場合は、ゆっくり穏やかに話しかけて近くで見守ると、早く落ち着くケースが多いのです。

38

◆ 警察と知的障害にある本人との情報交流 —大阪府警 松原署（ふれあい交流講座）



- 受講後の感想（福祉関係者）；知的障害のある本人が日常的に警察官と接することは、安心感・信頼感を持ってもらう上で大切。

39

千葉県警での取り組み

- ①警察学校での「知的障害・発達障害を理解するための講座」
毎年開催、500人の若い警察官
- ②各警察署での取り組み
市川警察署 本人向けロールプレイ
・街中でけんかがあったときの回避方法
・自転車荷台の引ったくりにあわないために

40

②組織としての危機対応として

- ・刑事手続き・入り口支援
- ・出口支援

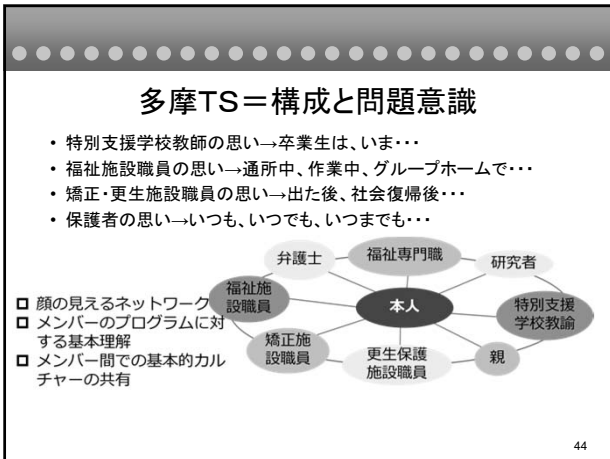
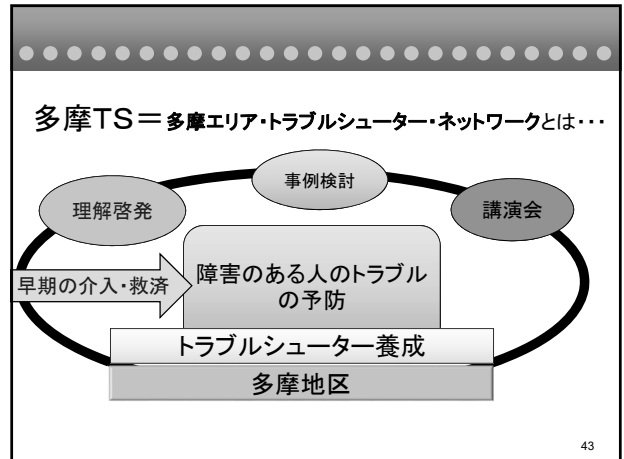
**刑事手続きの流れ、
どんな関係機関や関係者と
連携すればいいか（山田研修）**

41

3. 危機介入《性犯罪加害》のための地域ネットワークと実践

多摩TSで実践した
SOTSEC-IDの取り組み

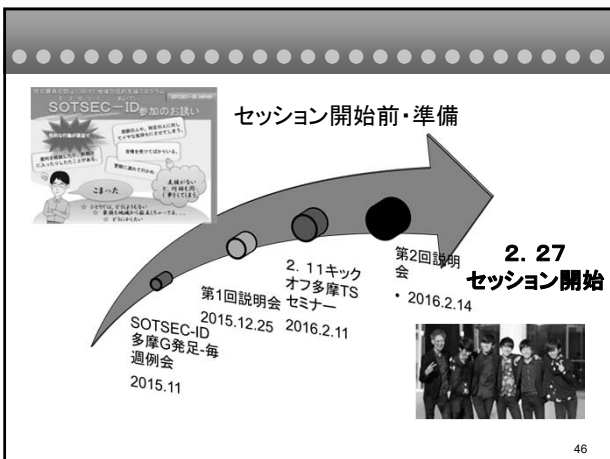
多摩TSコアメンバー（平井2016）



SOTSEC-ID

認知行動療法 (CBT) プログラム (2002年より英国 KENT Univ. で導入)
<https://www.kent.ac.uk/tizard/sotsec/Event-1.html>
 グループセッション
 対象者: 18歳～60歳 IQ55～80程度を対象 併存障害、犯罪の種類を問わない
 目的 1. 自尊心を高める 2. 認知のゆがみの修正 3. 被害者への共感性の対人関係の機能向上 4. 性的好みの改善 5. リラクス・プリベンションの確保

刑事施設や医療施設ではない「地域ベース」のコラボレーティブ・システム
 SOTSEC-IDは、出来合のプログラムはないので、リスク・アセスメントのあとの教育プログラムや認知スキーマの組み替え、リラクス・プリベンションは、参加者に応じて工夫が必要



多摩TSの強みを活かして

- 特別支援学校や少年院での指導モデル
→ 個々の対象者に応じてつくるワークセッション
- ワークショップや成人講座で培ったノウハウ
→ 参加者の主体的学びをつくるアクティブラーニング
- にげない・あきらめない福祉の心意気
→ 利用者とともに歩む伴走者的アプローチ
- アウトリーチ & インフォーマルアプローチも辞さない
→ 素早い対応と確かなフォロー

ARMIDILO-Sによる動的アセスメント

- 性犯罪再犯に関するリスクを増加もしくは減少させる可能性のある要因を特定し管理するためのツール⇒リスクを低下させ、保護要因を強化することに焦点を当てるプロセスを反映
- 継続的(過去1、2年)なクライアントに関する情報と環境(支援者の態度や支援者間の情報共有、介入の一貫性など)に関する情報、短期的(ここ2、3カ月)なクライアントに関する変化と環境の変化、という4つのカテゴリー27項目で、それぞれ「リスク」と「保護因子」とを評価する

48

ARMIDILO-Sによる動的アセスメント例

持続的なクライアント項目	リスク 判定	関連するデータ/コメント	保護要因 判定	関連するデータ/コメント
1. 監督へのコンプライアンス (規則遵守、協力的か、規範意識)	S	親への反発がある..	Y	危険に対する自己認識はある。規則は守る..
2. 治療へのコンプライアンス (同意、通院、治療に関わる強味..)	N	自分の行動を直したいと希望している..	Y	通院している..
3. 性的な逸脱 (行動、空想、興味、ヒストリー..)	Y	女子高生が好き 出会い系サイトにはまったことがある..	N	エレベーターには乗らないようにしている..
4. 性への没頭/性衝動 (マス頻度、ポルノの利用、性的コメント、自己コントロール..)	X	扱いやすい子を選んでいる 女性への恨みがある..	Y	ストレスが生じると自分からカウンセリングを受ける..

Y=Yes(確實に問題ある/保護要因である) N=No(問題ない/保護要因でない)
S=some(いくらかある) X=わからない(さらに情報を集める必要がある)

49

多摩2016Men'sG の課題推定

- このグループには、性交や暴行を伴う問題行動はない
- 主たる性的問題行動は、不適切なタッチである
- 少年院入院から保護観察付き執行猶予まで10年近く痴漢行為を繰り返していたり、何度も警察の注意を受けていたりする人もいる
- 全員がカウンセリングや地域の就労継続支援事業所など、医療や福祉の支援を受けている人である
- 生活基盤は、家族同居2、入所施設1、アパート一人暮らし2と多様であり、かつ成育歴も、家族関係の厚かった人3と希薄だった人2に分かれる

⇒レイプその他の性的虐待行為に関する内容は扱わずに良い衝動を高めるような内容を扱わないのが原則。
⇒中心的なリラプス・プリベンションは、「悪いタッチ」に照準をあわせる
⇒ソーシャルスキル、共感性の向上、衝動コントロールなどのコミュニケーション能力と、自己肯定感を高めることを重視し、好ましい対人関係能力を培うことが目標となる

50

2016. 2-8Men'sGプログラム

Men'sのプロファイル・課題 → GOOD LIFE → ARMIDILO-S

30セッション

SOTSEC-IDの目的

- 自尊心を高める
- 認知のゆがみの修正
- 被害者への共感性を高める
- 対人関係の機能向上
- 性的好みの改善
- リラプス・プリベンションの確保

プログラム案

コンポーネント I 1ソーシャルスキル 2認知行動モデル	コンポーネント II 3被害者への共感 4衝動コントロール	コンポーネント III 5健全なセクシャリティー 6再発防止グッドライフプラン作成
------------------------------------	-------------------------------------	---

51

プログラム・コンポーネントの内容-I

1ソーシャルスキル

- 話を聞く、会話を始める、自己紹介をするなどの基礎的スキルを獲得する
- 援助を求める、謝罪する、自分の感情を把握して表現する、ポジティブな社会活動に仲間を誘うなど。
- 価値観の多様性を受け入れ共存する態度を培う
- 8つの基本感情、傷つき、戸惑い、恥じらいといった複雑な感情を認識し表現するなど。

2認知行動モデル

- 行動をABCモデルで理解する
- 問題行動を引き起こす思考/感情/出来事の理解など
- 気持ちを言語化する(思考と感情を言語化し省察し、別の思考と感情に置き換える)

52

プログラム・コンポーネントの内容-II

3被害者への共感

- トラウマの被害体験が人生に及ぼす影響の理解
- ステレオタイプな男性性を健全な男性アイデンティティに置き換える
- 女子と子どもに対する歪んだ信念の矯正

4衝動コントロール、リラプス・プリベンション

性的問題行動の先行事象の理解と逸脱的な性的思考を中断するための認知行動的介入

- 衝動コントロールと判断の強化、行動の社会的、情緒的、法的結果の予測によって、性的興奮や行動化につながるような思考を中断する
- 怒り感情の認識能力と感情調整能力の改善

* 葛藤解決ロールプレイなど

53


プログラム・コンポーネントの内容ーⅢ

5健全なセクシャリティ

- 1) 男性の身体と性的しくみ、女性の身体としくみ
- 2) 3つの性的欲求のコントロールとセルフタッチ(マスターベーション)の方法
- 3) 健全な性的関係の理解と性的関係において生ずる問題への対処に関するスキル

6再発防止グッドライフプラン作成

- 1) 性的問題行動のリスクを増大させる状況と要因の理解
- 2) 包括的で個別的な再発防止計画の作成
- 3) 家族や地域社会へポジティブな貢献を行うための複数の方法の立案
- 4) 人生の短期目標と長期目標の設定と、その達成に向けた計画の作成




54

セッション構造

日時 2016年〇月〇日(土)~毎週土曜日14:00~16:00~ 〇月〇日迄
FT 堀江・平井他、特別支援学校教諭、少年院教官、精神保健福祉士・社会福祉士、障香福祉事業所職員、弁護士で構成。

各回は、MFT1、SFT2、計3名で実施。他は別室でモニター・記録。
セッションの流れ
準備 13:00にメンバーが集合し、会場づくりとその確認を済ませる


1. 前回の復習 宿題の確認と前回内容のディスカッション
2. 新しい課題の導入 新しい概念やスキルの提示
3. (休憩:お茶やお菓子を食べる)
4. スキルの確認とモデリング・ロールプレイなど
5. 宿題の提示(ないときもある)
6. 旅費の精算・会場整理・帰宅時注意事項等
片付け・反省
Men'sが帰ったら、反省と次回以降の打合せを17:00迄



55

プログラム進行の実際 前期 2月~4月 共感的・共闘的關係性をつくる


- 1回目 オリエンテーション ルール
- 2 仲良くなるワーク
- 3 自分の大切なもの
- 4 自分のことー私のした悪いタッチ
- 5 ABCサイクル
- 6 ABCサイクル
- 7 ストレスマネジメントーABCで考える
- 8 共感ワークー表情をつくる
- 9 共感ワークー表情を判断する



56

プログラム進行の実際 中期 4月~6月 素直になり自分の問題を語り出した

- 10回目 ストレスマネジメントとグループワークの意義
- 11 ストレスマネジメントと悪いタッチ
- 12 自分の問題行動を語る1
- 13 自分の問題を語る・綴る2 ABCと意図と感情
- 14 自分の問題を語る・綴る3 ABCと性犯罪の法律
- 15 悪いタッチ「4つのいけない」
- 16 悪いタッチをしないわけ、認知のゆがみ小テスト
- 17 自分の思い込みを見直そう



57


第9回

これから➡

主にわるかったタッチ

自分の行動をみつめよう

失敗行動(B)を変えるには、(A)を変えて(C)を良くする
その時
良い考えとすてきな感情がついている



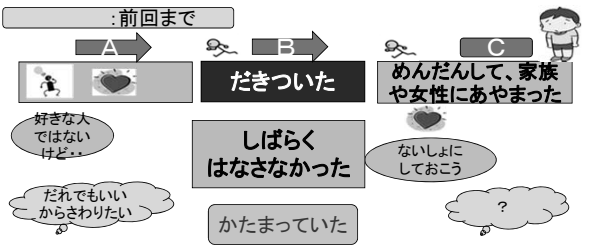
58

第12回

前回まで

A ➡ B ➡ C

好きな人ではないけど...
だきついた
めんだんして、家族や女性にあやまった
しばらくはなさなかった
ないよにしておこう
かたまっていた
?



59

第13回

そもそもお互いの合意なく女性のからだをさわるとは

迷惑防止条例(めいわくぼうしじょうれい)というきまり
人に恥ずかしい思いや不安にさせるようなことをしてはいけない。

1 みんながいる・使う場所や乗物において、人の身体に触れること。(衣服の上からでもいけません) ⇒ 痴漢(ちかん)

* 胸やお尻の場合は、強制わいせつ罪(刑法)となることがあります

**相手の心に一生残る傷をつけてしまう
あなたの家族や友だち、親しい人が悲しむ
友だちや支援者がいなくなる。信用を失う
刑務所に入ったり、罰金をとられたりする**

60

プログラム進行の実際 後期 6月～8月
再発しないための具体的な方策を考え合う

- 18回目 健全なセクシャリティーとは何か1
- 19 健全なセクシャリティーとは何か2
- 20 リラプス・プリベンションの方法1
- 21 リラプス・プリベンションの方法2
- 22 リラプス・プリベンションの方法3
- 23 被害者への共感ワーク
- 24 被害者への共感ワーク
- 25 私のGoodLifeプラン1
- 26 私のGoodLifeプラン2
- 27 修了式



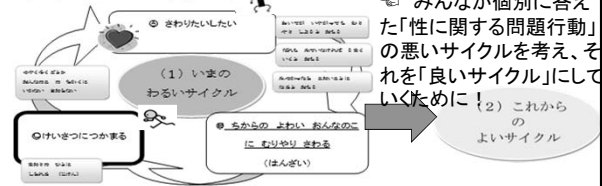
61

第19回

今週すること

悪いサイクルから良いサイクルに

こどうのサイクル「わ」をしる



62

第23回、24回

被害者の気持ちに共感する
わたしが嫌だったこと

自分の傷つき、痛み、苦しみを
知ることが、他人の痛み
に気づくことになる

自分の傷つき、痛み、苦しみを癒や
された体験が、他人へ共感となる

63

第26回

二度と過ちをしないために

私の素敵な男プラン

みんなの人生目標

- 転職 ポリッシャーとビルクリーニングの仕事
- ひっこし
- テニススクールに行きたい
- 結婚
- 作業所のしごと
- 一人旅
- そのまま
- 彼女(今は友だちレベル)と結婚



64

セッションを終えて1

正確なリスクアセスメントとリスクマネジメント

1. 日常的な支援者(家族、GH世話人、事業所支援員、雇用主 etc.)からの情報提供と後方支援
2. 当事者からの聞き取り、セッション進行の中から知る情報の重要性
3. 環境リスクの把握と送迎体制等の配慮が必要な場合も
4. 一人一人とつながるメール・SNS等の活用
5. いざという時の関係機関(弁護士、病院、福祉事業所等)連携

65

セッションを終えて2

毎回のセッション活動計画の作成

- プログラム進行に沿いながらも、前回の様子やメンバーの理解等に応じて柔軟に活動内容を決める
- 見る、聞く、語る、応答する、書く、描く、操作する、演じる等の活動を組み合わせる
- ポイントをフォーカスさせた提示や繰り返しも有効
- グループセッションが基本だが、課題に応じて1対1の個別ワークも取り入れる

66

4. まとめ

危機介入《触法》《災害》の
ための地域ネットワークづくり

①危機介入・支援のための
ファーストエイドに関連する機関

②危機防止と地域での継続した
暮らしのための関連機関

*あなたの地域で考えてみましょう

① 触法や災害時の

「第一次的(ファーストエイド的)対応」

- 基幹相談支援センター、相談支援事業所、就労支援センター等の支援者、ほか、GHの支援者等などは、触法や災害時の「第一次的(ファーストエイド的)対応」が期待される。
- これが可能なセンターや相談スタッフの確保は重要である。主に、地域生活定着支援センター、発達障害者支援センター、基幹相談支援センター、相談支援事業所、圏域アドバイザー等の支援者。

68

② 触法や災害時の

「居住支援」としての役割

いわゆる「入り口支援」でも「出口支援」でも、地域での暮らしの安定が再犯防止や生きなおしには重要である。

居住支援を進め支援者の参加が必要とされている。

69

③ 司法(弁護士、警察官)関係との連携

- 各地で触法行為を犯した障害者の支援をしてきている弁護士や、保護観察所保護観察官、社会復帰調整官、少年鑑別所、刑務所および少年院の法務教官や看護師、少年院精神科医(医務医官)、更生保護施設スタッフ。
- 新潟;新潟刑務所の法務教官と看護師がネットの中心メンバーとなっている
- 多摩地区;近隣の少年院の法務教官が継続して参加
- 沖縄や富津地区;警察官が参加

70

④ 教育関係との連携

- 特別支援学校では、卒業生や在校生がトラブルや犯罪に巻き込まれることも少なくない。
- 特別支援学校高等部や進路指導の教員、定時制高校の教員などが参加。

71

⑤ 行政との連携

- ・ 沖縄や富津；県および市町の障害福祉課が協力。
防災プロジェクト；
大田区；障害福祉課、自立支援協議会と連携
市川市；育成会の親の会、民生委員などが連携

72

■地域生活支援サポートネット-2段階ネット

- ・ ①触法・トラブル・災害の初期のファーストエイド的&理解啓発が可能な人材養成【トラブル予防・災害の初期レベル】
- ・ :地域住民や、被害者、警察官などに、トラブルや触法初期の事態について、
- ・ 的確に、専門的に、かつ被害者や住民の心理的状态に対応して説明をし、
- ・ 解決のためのファーストエイドを行える人材が求められている。

73

■地域生活支援サポートネット-2段階ネット

- ・ ②触法や災害時の「入り口支援」「避難所対応」などの福祉側の専門的な対応が可能なサポーターの役割【触法の刑事手続き・災害緊急時対応レベル】
- ・ :逮捕後、適宜、専門的に、かつ、被害者感情に配慮しながら、実施できる人材の養成。
- ・ 最近の弁護士会の動きとして「知的障害専門弁護士」養成の動きがあり(大阪弁護士会、神奈川弁護士会等)、これに適宜、呼応し効果的に実践へと結びつけるための福祉側の人材の養成が急務である。

74

■全国の地域生活サポートネットの形態

1. 地域密着型の地域生活サポートネット
東京TS ⇔ 大田TS、あだちTS
多摩TS
新潟TS ⇔ 新発田TS、村上TS、
沖縄TS ⇔ 石垣圏域TS、八重山圏域TS
2. 持続可能なTS活動への展開
関西TS他 基礎研修 ⇔
継続的なアドバンス講座
事例検討ミーティング

75

■全国の地域生活サポートネットの形態

3. 行政との連携によるTS活動
千葉・富津TS ⇔ 市障害福祉課との連携
他TS 自立支援協議会等との連携
4. 専門支援の可能なTS活動への展開
東京TS ⇔ 刑事手続き「入り口支援」
新潟TS ⇔ 刑務所等矯正関係と福祉支援の連携
多摩TS ⇔ 性犯罪加害予防SOTSEC-ID実践

76

■2017年度 サポートネット実践を

- ・ 講師派遣やプログラム作成などをお手伝いします
- ・ 連絡先
- ・ NPO法人 PandA-J(ぱんだJ)
info-panda-j@shiraume.ac.jp
- ・ mayumi@shiraume.ac.jp

77

■ 介入的支援—グループワーク

1. 目的：あなたの地域に、
地域生活安全サポートネットワークを作る
A；トラブル予防・支援困難・入り口支援
B；災害支援
2. 短期的達成目標
 - ①安サポセミナーを開催する
→セミナーA
セミナーB
 - ②ネットワークに必要な機関・人材をあげる

78

■ 介入的支援—グループワーク

3. グループワークの方法 KJ法による
 - ①あなたの地域の具体的な関係機関をあげる
A；トラブル予防・触法支援に必要な機関・人材と役割
B；災害支援に必要な機関・人材と役割
 - ②各自、ポストイットに上記を記載する(10分)
 - ③グループワーク(50分)
A；トラブル予防・触法支援ネットをつくる
B；災害支援ネットをつくる
4. 発表とディスカッション(30分)

79